

令和5年度 第64回 宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南大会

大会報告書

研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、
継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～ 児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～



【期日】 令和5年10月27日（金）

- 主催 宮崎県学校体育研究会
- 共催 宮崎県教育委員会 串間市教育委員会 日南市教育委員会
- 会場 小学校部会 串間市（串間市立大東小学校）
中学校部会 串間市（串間市民総合体育館）
高等学校部会 串間市（県立福島高等学校）
特別支援学校部会 日南市（県立日南くろしお支援学校）

目 次

| | | |
|---|---|-------|
| 1 | 開催要項 | 1 |
| 2 | 研究計画と内容 | |
| | ○宮崎県のつながりのある学習の研究 | 9～11 |
| | ○令和5年度の研究の視点 | 12～14 |
| | ○「つながりのある学習」指導講評 | 15～16 |
| 3 | 小学校部会要項 | |
| | ○串間・日南地区小体連の研究 | 19～21 |
| | ○研究の変容と研究の成果 (事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果) | 22～28 |
| | ○授業研究会の記録 (授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評) | 29～33 |
| 4 | 中学校部会要項 | |
| | ○南那珂地区中体連の研究 | 37～40 |
| | ○研究の変容と研究の成果 (事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果) | 41～43 |
| | ○授業研究会の記録 (授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評) | 44～47 |
| 5 | 高等学校部会要項 | |
| | ○県高体連日南・串間支部の研究 | 51～54 |
| | ○研究の変容と研究の成果 (事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果) | 55～59 |
| | ○授業研究会の記録 (授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評) | 60～65 |
| 6 | 特別支援教育部会要項 | |
| | ○研究の変容と研究の成果 (事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果) | 69～72 |
| | ○授業研究会の記録 (授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評) | 73～80 |
| 7 | 大会役員名簿 | |
| | ○大会役員 | 81～82 |
| | ○県実行委員会 | 83 |

第64回宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会開催要項

1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

2 主 催

宮崎県学校体育研究会

3 共 催

宮崎県教育委員会 串間市教育委員会 日南市教育委員会

4 後 援

宮崎市市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会
宮崎県私立中学高等学校長会

5 主 管

第64回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会
串間市小学校体育連盟・日南市小学校体育連盟
南那珂地区中学校体育連盟
宮崎県高等学校体育連盟日南・串間支部
宮崎県特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会

6 期 日

令和5年10月27日（金）

7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

8 会 場

| 期 日 | 種 別 | 会 場 |
|-----------|-------------|--------------|
| 10月27日（金） | 小 学 校 部 会 | 串間市立大東小学校 |
| | 中 学 校 部 会 | 串間市民総合体育館 |
| | 高 等 学 校 部 会 | 県立福島高等学校 |
| | 特別支援学校部会 | 県立日南くろしお支援学校 |

9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習] 》 （令和5～7年度）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

《部会研究》

| | |
|--------|---|
| 小学校 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 中学校 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 高等学校 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 特別支援学校 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |

10 日 程

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------|--------------|----------------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|--------------------------|-------|------|--|--|--|
| 10月27日(金) | 小学校部会 | 9:10 | 10:00 | 11:00 | 14:40 | 15:45 | | | | | | | |
| | | 8:40 | 9:50 | 10:45 | 11:45 | 12:30 | 14:30 | 15:40 | 16:00 | | | | |
| | | 受付 | 開会行事 研究発表 視点説明 | 授業発表Ⅱ (各部会) | 授業発表Ⅰ (つながり) | 昼休憩準備 | 授業研究 | ポスター セッション (2コーナー) | 閉会行事 | | | | |
| | | | (40分) | (45分) | (45分) | | (120分) | | | | | | |
| | 会場：串間市立大東小学校 | | | | | | | | | | | | |
| | 中学校部会 | 9:20 | 10:00 | 11:05 | 15:05 | 15:45 | | | | | | | |
| | | 8:50 | 9:50 | 10:50 | 11:55 | 12:40 | 14:50 | 15:40 | 16:00 | | | | |
| | | 受付 | 開会行事 研究発表 視点説明 | 授業発表Ⅰ (つながり) | 授業発表Ⅱ (各部会) | 昼休憩準備 | ワークショップ 授業研究 | 各地区 研究発表 | 閉会行事 | | | | |
| | | | (30分) | (50分) | (50分) | | (130分) | (35分) | | | | | |
| | 会場：串間市民総合体育館 | | | | | | | | | | | | |
| | 高等学校部会 | 9:40 | 10:10 | 10:35 | 11:30 | 15:00 | 16:00 | | | | | | |
| | | 9:00 | 10:00 | 10:25 | 11:20 | 12:15 | 13:10 | 15:10 | 15:45 | | | | |
| | 受付 | 開会行事 視点説明 | 教科研調査発表 | 研究発表Ⅰ | 授業発表Ⅰ (つながり) | 授業発表Ⅱ (各部会) | 昼休憩準備 | ワークショップ 授業研究 | 研究発表Ⅱ | 閉会行事 | | | |
| | | (20分) | (10分) | (15分) | (45分) | (45分) | | (110分) | (35分) | | | | |
| 会場：県立福島高等学校（午後：串間市民文化会館） | | | | | | | | | | | | | |
| 特別支援学校部会 | 8:55 | 9:40 | 10:40 | 11:40 | 13:30 | 14:30 | 15:50 | | | | | | |
| | 8:40 | 9:15 | 10:30 | 11:30 | 12:30 | 14:20 | 15:40 | | | | | | |
| | 受付 | 開会行事 視点説明 | 授業発表Ⅱ (各部会) | 授業発表Ⅰ (つながり) | 授業研究 | 昼休憩準備 | 研究協議 研究発表 | 授業研究会 | 閉会行事 | | | | |
| | | (20分) | (50分) | (50分) | (50分) | | (50分) | (70分) | | | | | |
| 会場：県立日南くろしお支援学校 | | | | | | | | | | | | | |

11 内容

(1) 小学校部会

① 研究発表・視点説明

| | | | |
|-------|---|----|-------|
| 発表題目 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ | | |
| 役職名 | 氏名 | | |
| 研究発表者 | 宮崎市立宮崎東小学校 | 教諭 | 年永健二 |
| 視点説明 | 串間市立北方小学校 | 教諭 | 川原裕一郎 |

② 授業発表

| | 学年 | 単元 | 発表者 |
|-------------|--------|----------------------|----------------------|
| I (つながり) | 第3・4学年 | ゲーム 「プレルボール」 | 串間市立本城小学校 教諭 吉井湧人 |
| II (地区) | 第5・6学年 | ボール運動 「ソフトバレーボール」 | 串間市立都井小学校 教諭 黒原麻由 |

③ ワークショップ型授業研究

| 役職名 | 氏名 | | |
|-------|---------------|------|-------|
| 指導助言者 | 南九州大学人間発達学部 | 教授 | 宮内 孝 |
| | 宮崎県教育庁スポーツ振興課 | 指導主事 | 財津 吉正 |
| 司会者 | 宮崎市立宮崎東小学校 | 教諭 | 年永健二 |
| 記録者 | 美郷町立美郷南学園 | 教諭 | 佐藤 優美 |
| | 延岡市立旭小学校 | 教諭 | 菊池 真央 |
| 進行 | 日南市立吾田東小学校 | 教諭 | 日吉 祐太 |

④ 研究発表

| 研究発表題目 | 発表者 | | |
|---|------------|----|--------|
| 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方～「ゲーム・ボール運動」における主体的・対話的な授業の展開～ | 門川町立草川小学校 | 教諭 | 岩下 明弘 |
| | 門川町立門川小学校 | 教諭 | 柳田 かおり |
| 進行・司会者 | 川南町立山本小学校 | 教諭 | 西村 理恵 |
| 記録者 | えびの市立真幸小学校 | 教諭 | 本田 昭寿 |

| 研究発表題目 | 発表者 | | |
|--|-----------|----|-------|
| 「アクティブ・ラーニング」によるマット運動の学習プログラムの有効性～小学校第6学年を対象として～ | 川南町立川南小学校 | 教諭 | 徳原 宏樹 |
| 進行・司会者 | 都城市立西小学校 | 教諭 | 井手 省吾 |
| 記録者 | 国富町立木脇小学校 | 教諭 | 小嶋 健太 |

(2) 中学校部会

① 研究発表及び視点説明

| 活動報告及び研究発表題目 | 発表者 |
|--|-----------------------|
| 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方 | 宮崎市立宮崎西中学校 教諭 前田浩司 |
| (視点説明) 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 日南市立南郷中学校 教諭 中屋敷卓 |

② 授業発表

| | 学年 | 単元 | 発表者 |
|-------------|------|---------------------|-----------------------|
| I (つながり) | 第1学年 | 球技 (ネット型：バドミントン) | 串間市立串間中学校 教諭 尾崎城夫 |
| II (地区) | 第3学年 | 保健 (健康と環境) | 日南市立吾田中学校 教諭 田中美津子 |

③ ワークショップ型授業研究

| 役職名 | 氏名 |
|-------|-------------------------|
| 指導助言者 | 宮崎大学教育学部 教授 日高正博 |
| | 宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 西田英司 |
| 司会者 | 西都市立都於郡中学校 教諭 金丸宜弘 |
| 記録者 | 宮崎市立清武中学校 教諭 日高雅友 |
| | 都城市立妻ヶ丘中学校 教諭 新名悠紀 |
| 進行 | 延岡市立北川中学校 教諭 原田卓弥 |

④ 地区研究発表

| | 【地区】 研究発表題目 | 発表者 |
|---|---|--------------------------|
| 1 | 【西臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～ICT機器を活用した効果的な指導方法について～ | 日之影町立日之影中学校 教諭 甲斐一成 |
| 2 | 【延岡】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 延岡市立西階中学校 教諭 徳淵喬 |
| 3 | 【東臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 美郷町立美郷北義務教育学校 教諭 佐藤浩行 |
| 4 | 【西都・児湯】 共生の視点に立ったソフトボールの指導方法の工夫 | 新富町立富田中学校 教諭 古木悠貴 |
| 5 | 【西諸】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 小林市立三松中学校 教諭 岡上桂 |

(3) 高等学校部会

① 視点説明

| | | | |
|------|------------|----|------|
| 視点説明 | 県立日南振徳高等学校 | 教諭 | 高野茂嘉 |
|------|------------|----|------|

② 教科研究調査発表

| 内 容 | 発 表 者 |
|--------------------------|--------------------|
| 教科研究委員会の研究計画（令和5～7年）について | 教科研究委員長 教諭 徳峰敬祐 |

③ 研究発表 I

| 内 容 | 発 表 者 |
|--|------------------------|
| 全寮制中等教育学校における健康管理・体力向上について ～ウェアラブル端末を用いた保健体育～ | 県立五ヶ瀬中等教育学校 教諭 増田浩樹 |

④ 授業発表

| | 学 年 | 単 元 | 発 表 者 |
|-------------|------|----------------------|---------------------|
| I (つながり) | 第3学年 | 球 技 (ネット型：バレーボール) | 県立福島高等学校 教諭 松崎勇人 |
| II (地区) | 第2学年 | 球 技 (ネット型：バドミントン) | 県立福島高等学校 教諭 星原貴浩 |

⑤ ワークショップ型授業研究

| 役 職 名 | 氏 名 | | |
|----------|------------|----|------|
| 指導助言者 | 日本女子体育大学 | 教授 | 高橋修一 |
| 司会者 | 県立小林高等学校 | 教諭 | 福元哲也 |
| コーディネーター | 県立日向工業高等学校 | 教諭 | 徳峰敬祐 |
| | 県立日南振徳高等学校 | 教諭 | 高野茂嘉 |
| 記録者 | 県立日南振徳高等学校 | 教諭 | 成合重登 |
| | 県立日南高等学校 | 教諭 | 中須遼平 |

⑥ 研究発表 II

| | 研 究 発 表 題 目 | 発 表 者 | |
|-------|---|------------------|------|
| 1 | 【県北支部】 スキルチェックシートを活用した授業実践と 今後の課題 | 県立延岡星雲高等学校 教諭 | 角田 太 |
| 2 | 【西都・児湯支部】 水泳（クロール）における指導の在り方 | 県立高鍋農業高等学校 講師 | 黒木千種 |
| 役 職 名 | 氏 名 | | |
| 指導助言者 | 宮崎県教育庁スポーツ振興課 | 指導主事 | 堀口直樹 |
| 司会者 | 日南学園高等学校 | 教諭 | 清水美行 |
| 記録者 | 日向学院高等学校 | 教諭 | 小川隆三 |
| | 都城東高等学校 | 教諭 | 石窪真一 |

(4) 特別支援学校部会

① 視点説明

| | | | |
|---------|--------------|-----|---------|
| 視 点 説 明 | 県立日南くろしお支援学校 | 教 諭 | 長 友 啓 輔 |
|---------|--------------|-----|---------|

② 授業発表

| | 学 年 | 単 元 | 発 表 者 |
|-------------|-----|---------------------|-----------------------------|
| I (つながり) | 高等部 | 球 技 (バレーボール) | 県立日南くろしお支援学校 教 諭 長 友 啓 輔 |
| II (地区) | 中学部 | 球 技 (くろしおバレーボール) | 県立日南くろしお支援学校 教 諭 古小路 和 隆 |

③ 研究発表

| 活 動 報 告 及 び 研 究 発 表 題 目 | 発 表 者 |
|---|---------------------------|
| 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～ICTの活用を通して子供たちの力を引き出す授業づくりをめざして～ | 県立小林こすもす支援学校 教 諭 森 玲 子 |

④ 授業発表・研究発表協議

| 役 職 名 | 氏 名 |
|-------|--------------------------|
| 指導助言者 | 日本体育大学体育学部 准教授 村井 敬太郎 |
| | 宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 早崎 達也 |
| 司 会 者 | 県立延岡しろやま支援学校 教 諭 佐藤 賢司 |
| 記 録 者 | 県立延岡しろやま支援学校 教 諭 伊東 寿晃 |
| | 県立日南くろしお支援学校 教 諭 清 美里 |
| 進 行 | 県立日南くろしお支援学校 教 諭 的野 美穂子 |

⑤ 授業研究会

| 内 容 | 担 当 者 |
|--|---------------------------|
| 球技（ネット型） 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた思考ツールの作成と評価 | 県立都城きりしま支援学校 教 諭 笠野 武志 |

12 参加申込み方法

10月6日（金）までに以下のアドレス、またはQRコードを利用して申し込むこと。

※大会役員・実行委員もそれぞれ申込みをして下さい。

| | |
|---|---|
| https://forms.gle/i6DpEb8RY39qDj667 <small>QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です</small> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 申込期限 令和5年10月6日（金） </div> |  |
|---|---|

【問い合わせ先】

宮崎県学校体育研究会事務局（高体連事務局内）

電話 0985-51-4109

**第 64 回宮崎県学校体育研究発表大会
串間・日南地区大会**

研究計画・内容

令和5年度 第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題（R5～7年度）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 部会別研究主題

| 部会名 | 主 題 |
|----------|---|
| 小学校部会 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 中学校部会 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 高等学校部会 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |
| 特別支援学校部会 | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～ |

3 主題の設定理由

(1) 学習指導要領の趣旨

学習指導要領の改訂では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識及び技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）」の3つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、3つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるともしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無にも関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和4年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べて全ての校種の多くの学年で体力合計点が低下している。体力合計点は、令和元年度から連続して低下している。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いているが、「シャトルラン」、「ボール投げ」は、年々低下している状況である。

また、全ての校種において、令和元年度の前後を境に「50M走」の低下が見られるが、「長座体前屈」は年々向上している結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、全ての校種で外遊びや運動・スポーツを行う活動時間の減少とともに、スマートフォンやテレビ等の視聴時間といったスクリーンタイムの増加により、年々、身体活動が低下している状況が見られる。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校で85.7%、中学校が92.0%、高等学校が91.6%となっており、県内の「あまり好きでない」「嫌い」という回答に比べ、体育授業が楽しい好きと感じる児童生徒が多い状況である。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ボール運動系ネット型」及び「球技ネット型」の領域において研究を深め、小中高特による「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、「つながり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童生徒像を明確にし、共有認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

4 研究を進めるにあたって

小中高特の「つながりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す3つの資質・能力を児童生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

③ 共生の視点に立った指導内容の充実

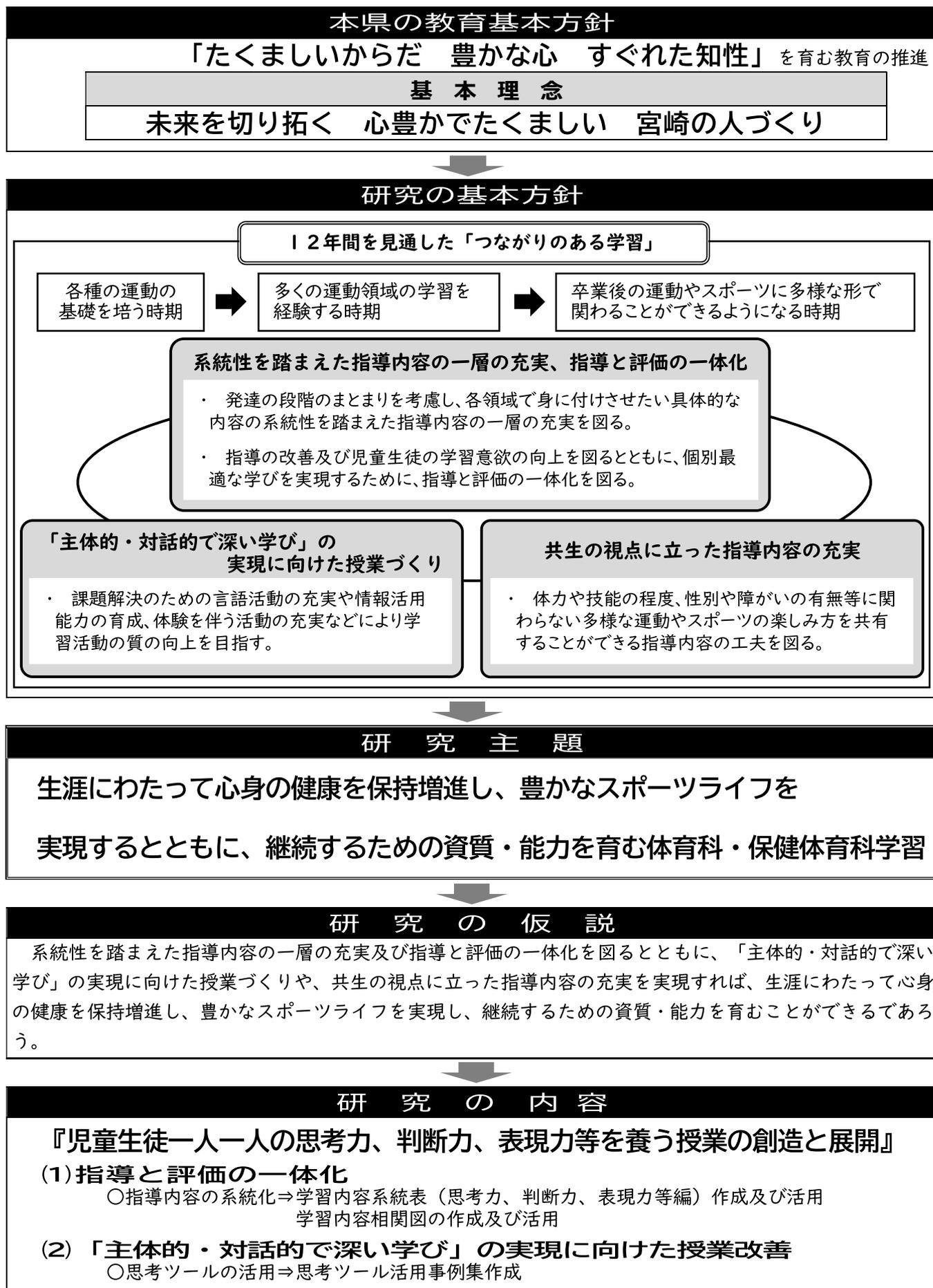
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらない多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標とし、多角的な視点での研究を進めることとする。

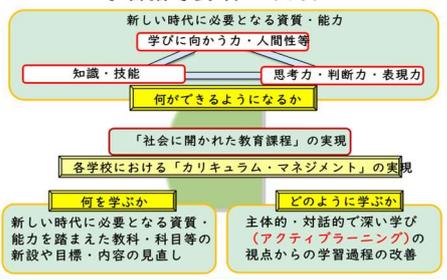
5 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

6 研究の概要（研究構想図）



『令和5年度 視点説明①』

| | |
|--|--|
| <p>宮崎県全体の研究主題</p> <p>生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～</p> | <p>宮崎県全体の研究主題としては、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」とし、副題として「～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」と設定した。</p> |
| <p>宮崎県学校体育研究会が進める研究</p>  <p>小学校 中学校 12年間の体育科・保健体育科学習 高等学校 特別支援学校 豊かなスポーツライフの実現</p> | <p>県学校体育研究会が進める研究については、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。</p> |
| <p>つながりのある学習とは</p> <p>単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を、明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。</p> | <p>「つながりのある学習」とは、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を、明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。</p> |
| <p>学習指導要領の方向性</p>  <p>新しい時代に必要となる資質・能力 学びに向かう力・人間性等 知識・技能 思考力・判断力・表現力 何ができるようになるか 「社会に開かれた教育課程」の実現 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現 何を学ぶか どのように学ぶか 新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点からの学習過程の改善</p> | <p>各学校において、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められる。</p> <p>また、「何ができるようになるのか」、「何を学ぶのか」、「どのように学ぶのか」という点が重要視されている。</p> |
| <p>【研究の基本方針】</p>  <p>3つの柱 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実 指導と評価の一体化 12年間を見通した「つながりのある学習」 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり 共生の視点に立った指導内容の充実</p> | <p>本県学校体育研究会においては、系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり、共生の視点に立った指導内容の充実の3つを研究の基本方針とした。この3つを念頭に置き、『12年間を見通した「つながりのある学習」』を目指し、研究を進めてきたところである。</p> |

『令和5年度 視点説明②』

| <p style="text-align: center;">研究のテーマ</p> <p style="text-align: center;">生徒一人一人の 思考力、判断力、表現力等 を養う授業の創造と展開</p> | <p>本年度の主題・副題の変更に伴い、研究のテーマを「生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開」とし研究を進めてきた。</p> | | | | | | |
|--|---|------|------|--|--|--|--|
| <p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等の構成</p> | <p>思考力、判断力、表現力等の研究を進める中で、各校種の学習指導要領解説を読むと思考力、判断力、表現力等には4つの領域で構成されていることが分かった。1つ目が「運動に関する思考力、判断力、表現力等」2つ目が「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」3つ目が「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」4つ目が「生涯スポーツの実践に関する思考力、判断力、表現力等」である。</p> | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | | | | <p>このことを踏まえ、このような学習内容系統表思考力、判断力、表現力等編を作成した。左から小学校、中学校、高等学校となる。小学校段階では運動に関する思考力、判断力、表現力等だけですが、中学校段階から領域に広がりが出てくるのが分かった。</p> |
| 小学校 | 中学校 | 高等学校 | | | | | |
| | | | | | | | |
| <p style="text-align: center;">特別支援学校 1段階～7段階</p> | <p>こちらは、特別支援学校の学習内容系統表になり、4段階から領域に広がりが出ていたことがわかった。</p> | | | | | | |
| <p style="text-align: center;">学習内容相関図</p> | <p>しかし、学習内容系統表は縦のつながりを表しただけにすぎず、これを単元計画に応用することは難しいと考えた。そこで、各校種の学習指導要領解説から「思考力、判断力、表現力等」は「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」と密接な関係であることを読み解き、それぞれの学習内容の関係性を図で表した。それがこの学習内容相関図になる。学習内容相関図を小学校から高等学校まで作成し、研究紀要に掲載した。特別支援学校については、生徒の実態に応じて学習内容を設定していくことから、作成はせず、小・中・高の学習内容相関図を応用するものとした。</p> | | | | | | |

『令和5年度 視点説明③』

| | | | | | |
|--|---|--|---|---|--|
| <p style="text-align: center;">学習内容の順序</p> | <p>この学習内容相関図から、それぞれの学習内容には順序があることがわかった。「知識及び技能」を押さえて「運動に関する思考力、判断力、表現力等」を育成する。「知識」や「学びに向かう力、人間性等」を押さえて「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」を育成する。「学びに向かう力、人間性等」を押さえて「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」を育成する。そして、それらの学習の成果を生かして、最終的に「生涯スポーツの実践に関する思考力、判断力、表現力等」を育成する。という順序である。</p> | | | | |
| | <p>次に思考力、判断力、表現力等を育成する手立てとして思考ツールの活用を小学校・中学校・高等学校で行った。特別支援学校は、生徒の実態から思考ツールを使用するのは困難と予測されたため、思考力、判断力、表現力等を育成する手立てを独自で考え、実践することにした。</p> <p>「思考ツール」は、頭の中で考えたことを整理したり、新たなことを考え出したりしながら思考スキルを高める有効な方法である。授業で習った知識を活用したり、課題解決をするために多角的な視野をもって物事を考えたりすることができる。</p> <p>体育・保健体育で「思考ツール」を活用することは、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を作り出すことが期待できる。</p> | | | | |
| <p style="text-align: center;">思考ツール活用事例集</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td> <p>【小学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050101</small></p> </td> <td> <p>【中学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050102</small></p> </td> </tr> <tr> <td> <p>【高等学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050103</small></p> </td> <td> <p>【特別支援学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050104</small></p> </td> </tr> </table> | <p>【小学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050101</small></p> | <p>【中学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050102</small></p> | <p>【高等学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050103</small></p> | <p>【特別支援学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050104</small></p> | <p>本地区では、これまでに活用してきた思考ツールを事例集としてまとめた。本日、お越しいただいた先生方には、封筒に研究紀要とは別冊で配布している。また、別紙にて小学校・中学校・高等学校の思考ツール活用事例集を QR コードでも案内している。</p> |
| <p>【小学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050101</small></p> | <p>【中学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050102</small></p> | | | | |
| <p>【高等学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050103</small></p> | <p>【特別支援学校部会】</p> <p><small>(URL) https://conf.n/2024/05/01/2024050104</small></p> | | | | |
| <p style="text-align: center;">授業参観の視点①</p> <p style="text-align: center;">学習内容系統表及び学習内容相関図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。</p> | <p>本日の授業参観の視点</p> <p>授業参観の視点① 学習内容系統表及び学習内容相関図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。</p> | | | | |
| <p style="text-align: center;">授業参観の視点②</p> <p style="text-align: center;">授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考ツールの活用はできていたか。</p> | <p>次に授業参観の視点②</p> <p>授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考ツールの活用はできていたか。</p> | | | | |

令和5年度串間・日南地区大会の授業について

宮崎大学大学院教育学研究科

三 輪 佳 見

今年度は同時に開催されている4会場を巡回したので、実際に授業を参観できたのは、中学校のバドミントン、高等学校のバレーボールの終わりの部分とバドミントンだけでした。後日、事務局より授業のダイジェスト版のビデオをご準備いただき拝見しました。その範囲で気づいたことを述べたいと思います。

初めに、実際に見たバドミンントンの授業を取り上げます。中学校でも高等学校でも用具が工夫されていました。中学校では打球面の大きなラケットが使用されていました。打つという動きをする場合、自分の感覚がとらえやすいのは手です。ラケットなど用具を使って打つ動きでは、手の感覚をその先の用具に伸長させてシャトル（ボール）をとらえなければなりません。飛んでくる動く対象物を手の先の用具でとらえることは難しく、苦手な生徒にとっては打球面が大きいと簡易化されて、ゲームに参加しやすくなります。

また高等学校では、練習の一部でシャトルの代わりに紙を丸めた軽いボールを使っていました。苦手な生徒でもなじみやすく、しかもラケットで打つのではなく、飛んできたボールを捕って投げ返します。ボレーで打ち返すという運動は、強く打とうとすれば動きは投げることに似てくるので、素振りの練習が行われがちです。しかし、必要な捕球技能を獲得していなければ、飛んでくるボールにミートできず空振りするだけです。そのような運動の構造に基づくと、捕る活動をまず行うのは、苦手な生徒にとって有効な指導方法であり、さらに授業では、この活動のなかでポジショニングを指導されていました。高校3年なので、状況に応じて連携して動けることが学習内容として求められており、その目標を達成するための配慮であったと評価できます。

しかし、小学校入学から高等学校卒業までの12年間で、公式に近いルールでゲームを楽しめるような技能を育てることは非常に難しいことです。高等学校のバレーボールの授業では、男女混成のチームで試合を行っており、女子が触球する場合は、バウンドさせてボールをつないでもよいというルールに変更していました。高校3年生でもVolley（ボレー）ball（ボール）を実施するのは難しいようです。

小学校はバウンドさせて打ち合うプレルボールが中学年で行われていました。授業の映像からは、よく弾むボールが使われているように見えました。さらに、第2触球者は直接打ち返すのではなく、キャッチ&スローのルールを取り入れていました。これらは苦手な児童もプレルボールのゲームに参加できるように配慮されたものです。しかしながら、なかなかボールを強く打つのは難しそうでしたし、打ちやすいボールを投げあげることもしない児童が見受けられました。先生が実際に示範しながら説明していらっしやったのですが、児童は模倣するのが困難なようです。中学年の児童は、ちょうど小学校入学からコロナ禍の影響を受けており、必要な運動経験が欠落していたかもしれません。

こうした児童・生徒の実態から、小学校から高等学校へと学習がつながって深まっていき、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。もちろん、基本的な技能を身に付けることは体育で育てる資質・能力の目標として掲げられていますし、身体運動を外してしまったら、教科としての体育の独自性も失われてしまいます。しかし、誰もが公式のルールでゲームを楽しめるような技能を身に付けられるわけではありません。そもそも器械運動のような運動領域は、体操競技という公式のスポーツ種目名でもなく、使用している器具も異なっています。つまり、学校の体育授業では公式のルールで実施することは初めから放棄されていて、その競技の特性に触れることが求められているといえます。

現行学習指導要領の解説では、「体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する」ことが改訂の趣旨として述べられています。このことを踏まえると、中学校の授業で取り入れられていた「ハンディキャップ」のような方法もよいと思います。ただ、ネット型の特性、すなわち打ち合える基本的な技能に基づいて、相手にラリーを中断させるという競争を楽しめるようなハンディキャップになっていたか、疑問に感じることもありました。

このように考えてくると、4-4-4の発達段階のまとまりに応じて、基本的な動きの習得、競争を楽しめるようにハンディキャップなどルールの工夫を指導し基本的な動きを活用、どうすれば多様な人同士が一緒に楽しめるか主体的にルールの変更などを探究するといった学習のつながりも考えてみてはいかがでしょうか。